

埼玉県立大学 地域包括ケア推進セミナー

聴覚・ろう重複障害者の社会資源づくり

～ふれあいの里・どんぐり施設運営から見えてきた地域の課題～

社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会
障害者支援施設 ふれあいの里・どんぐり
施設長 佐藤 喜宜

(社)埼玉聴覚障害者福祉会の紹介

BIG COMICS SPECIAL

どんぐりの家
第一巻

山本おさむ



私は生まれた 愛されるために
そして 愛を伝えるために



文部省特選
厚生省推薦
日本PTA全国協議会特別推薦
第1回文化庁メディア芸術祭優秀賞

製作●映画「どんくりの家」製作委員会
社会福祉法人 栄光建設青年福祉会
有限会社 栄一・栄二・栄三
株式会社 基幹教育

臺灣文化復興運動
 洪山秀作品
 M. 2011年出版

きっかけは一人の女の子の誕生だった



**彼女は聞こえないだけではなく知的障害を併せ持つ
「ろう重複障害者」だった**

ろう重複障害とは、どんな障害？

ろう重複障害とは、耳が聞こえない、または聞こえにくいといった聴覚障害に加えて、知的障害、肢体障害、視覚障害、精神障害などの障害も併せ持つ障害のこと。

周囲の人とのコミュニケーションが困難なため、障害の本当の姿や本人の能力、思いや願いが理解されにくいといった課題がある。

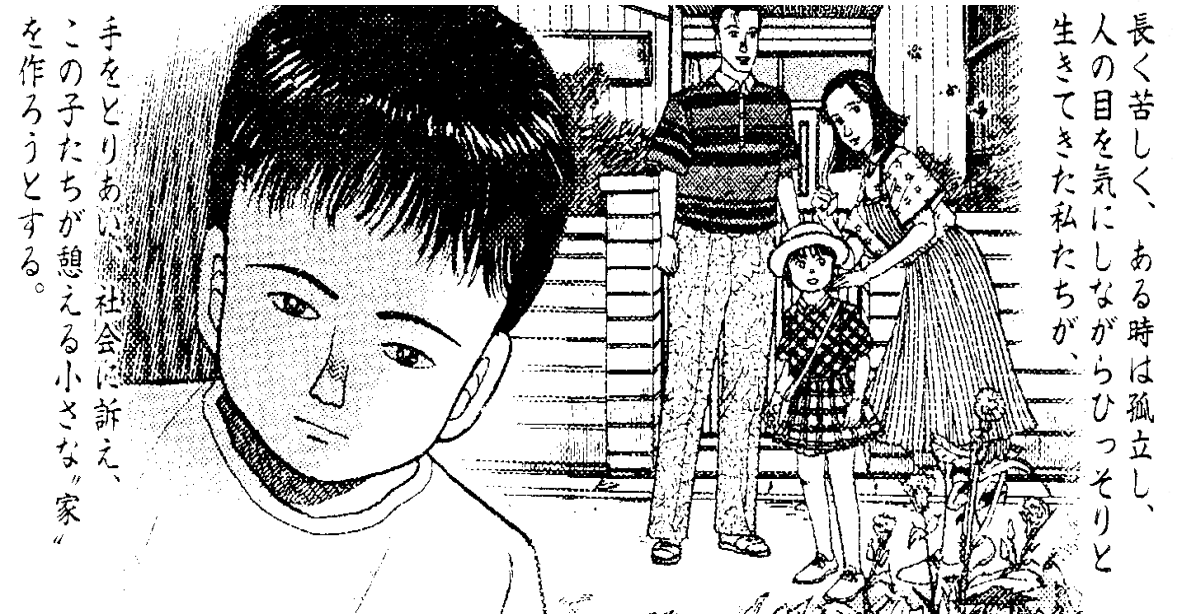


むすめよ、私はあなたより一日だけ、長く生きたい

「どんぐりの会」

重複学級卒業生に働く場を！

1985年(昭和61年)坂戸・大宮ろう学校の重複学級の親と教師で「どんぐりの会」を結成し、ろう重複児が卒業した後、働ける場所(共同作業所)作りを始める。



山本おさむ著「どんぐりの家」 第一巻より

共同作業所どんぐりの家 開所



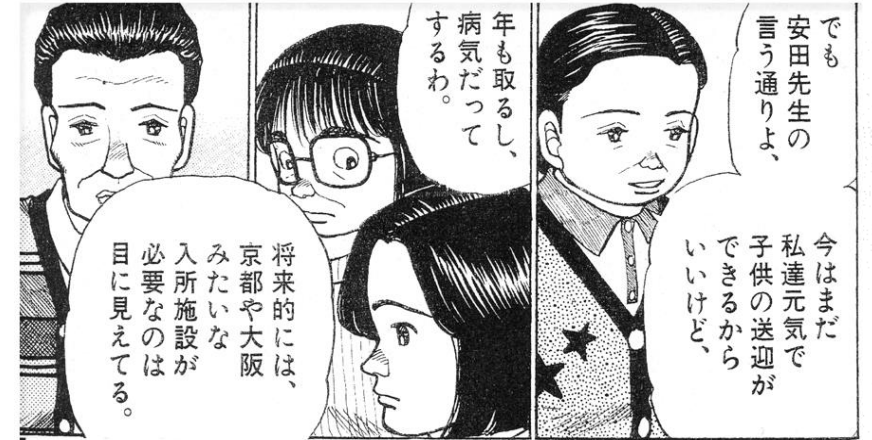
1986年 開所
(旧大宮市三条町)



1989年 引越し
(旧大宮市中釘)

『ふれあいの里・どんぐり』を作る会

- ・建設運動のスタート
- ・1991年⇒「ふれあいの里・どんぐりを作る会」結成
- ・1993年⇒通算270回を超える街頭募金活動の末、2年間で建設資金2億円達成
- ・1996年⇒『ふれあいの里・どんぐり』開所





ふれあいの里どんぐり
(障害者支援施設)



ひとつ星・さかど
(放課後等デイサービス)



オハナハウス
(グループホーム)



第1どんぐりホーム
(グループホーム)



ななふく苑
(特別養護老人ホーム)



埼玉聴覚障害者情報センター
(聴覚障害者情報提供施設)



春里どんぐりの家
(就労継続支援B型・生活介護)



マハナハウス
(グループホーム)





障害者支援施設 『ふれあいの里・どんぐり』



○事業内容

- ・障害者支援施設（施設入所支援） 定員50名（男性25名、女性25名）
- ・生活介護 定員63名 夜間利用者50名と通所利用者13名
- ・どんぐりを利用する場合は生活介護を受けている人で障害支援区分が区分4（50歳以上は区分3）以上の人
生活介護（通所利用）だけ利用したい場合は障害支援区分が区分3（50歳以上は区分2）以上の人
- ・その他の事業
ショートステイ定員4名（男性2名、女性2名）



共同生活援助(グループホーム)

『第1どんぐりホーム』 『オハナハウス』 『マハナハウス』



第1どんぐりホーム 定員10名



マハナハウス 定員6名



オハナハウス 定員6名

・原則として18歳以上の障害者が利用できます。

聴覚障害者情報提供施設 『埼玉聴覚障害者情報センター』

○事業内容

聴覚障害者相談

手話通訳者派遣・要約筆記者派遣

手話通訳者・講師養成・要約筆記者養成

難聴者・中途失聴者、盲ろう者向け通訳介助員講習会

ビデオライブラリー

災害時等の情報ネットワーク

施設利用・機器貸出



生活介護・就労継続支援B型 『春里どんぐりの家』

○事業内容

- ・就労継続支援B型事業 10名
- ・生活介護 10名

○作業内容

- ・下請け班(電線解体、内職請負)
- ・春里工房班(縫製品等の製造販売)



特別養護老人ホーム『ななふく苑』

○事業内容

- ・特別養護老人ホーム(68名)
- ・短期入所生活介護(ショートステイ)(5名)
- ・通所介護(デイサービス)(30名)
- ・毛呂山町地域包括支援センターななふく苑支所
- ・居宅介護支援(ケアプラン)
- ・特定相談支援事業相談支援センターどんぐり



放課後等デイサービス 『ひとつ星・さかど』



○事業内容

- ・2017(平成29)年、放課後等デイサービス事業として開所。
- ・障害のある子が放課後や学校が休みの日に過ごす。
- ・定員10名(登録28名)
- ・小学校1年生から高校3年生まで対象
- ・月曜日～金曜日(放課後) 学校休業日 ※月1土曜日開所
- ・下校～17時30分 10時～16時



法人の役割 『地域支援』と新たな社会資源の創設

○ふれあいサロン

毛呂山町の地域の高齢者が集まるサロン

どんぐり作業棟の部屋を貸し出す。運営は、地域のボランティア

○オレンジカフェ

認知症高齢者や家族の憩いの場として、月2回、どんぐり作業棟で開催してきた。新型コロナウイルスの流行に伴い現在は、ななふく苑で開催中

○買い物支援サービス

西大久保地域の高齢者のための事業。

自治会と、役場、社協とななふく苑で話し合い、令和4年4月から事業開始。

ななふく苑デイサービスで使用している、介護車両を有効活用し、デイサービス送迎以外の時間を利用して、高齢者の買い物支援に充てる取り組み。



地域で暮らそう高齢者の支援

目的

高齢のろう・ろう重複者が住み慣れた地域で孤立せずに暮らす。

高齢ろう・ろう重複者へ適切な情報発信及び、ニーズの掘り起し、関係機関へと繋げる。

事業内容

名称 ななふく交流会

2009年11月よりスタート 毎月1回 第2金曜日

対象者 ななふく苑周辺地域の在宅ろう高齢者が対象。

開始当初は、毛呂山町、坂戸市、鶴ヶ島市に在住する、ろう高齢者が集まる場であったが、ロコミで、川越、日高、東松山、狭山、入間、東村山と東京のろう高齢者までが集まる場になった。



地域で暮らそう高齢者の支援②

埼玉県内各地で、ななふく交流会同様の交流の場を期待する地域の声を受け、社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会後援会が主催する『ろう高齢者サロン』を東西南北で実施する。



- | | | |
|----|--------------|------------|
| 県北 | (会場:本庄地域) | 第2週木曜日 |
| 県東 | (会場:越谷地域) | 偶数月/第4週金曜日 |
| 県東 | (会場:加須地域) | 奇数月/第3週水曜日 |
| 県西 | (会場:入間地域) | 偶数月/第3週金曜日 |
| 県南 | (会場:さいたま市地域) | 奇数月/第3週水曜日 |

交流会・サロンで大事にしてきた事

①手話ができる専門職の配置

SW、ケアマネ、看護師が必ずサロンに参加する

②健康相談、悩み相談を行う

交流会・サロンを始める前に参加者1人ひとりと健康相談を行う。生活の悩みであれば、ケアマネやSWが相談を行う。

③地域のボランティアの協力

地域の社会資源として手話サークル員の協力をもらい運営を行ってもらう。自分たちの地域の課題を共有してもらう。

④情報発信

地域で暮らそう高齢者は情報が不足してしまう。当たり前と思っている情報すら持っていない事がある。交流会・サロンでは、参加者にわかりやすく、場合によっては個別に説明を行う。

地域の課題

①運動を支えてきた方々の高齢化

当法人を支えてこられた、家族会や埼玉県聴覚障害者協会、埼玉県手話通訳問題研究会、手話サークルの人が高齢化しており、次の担い手が不足している。

②専門的な支援を行う人材不足

大きな事業所に人は集まり、そこを拠点として人材を育成し、地域に還元してきたが、専門的な知識、支援を行う人材の育成には時間がかかる。福祉業界全般に言える事だが、人材が不足している。

③障害者差別・合理的配慮とは

聴覚障害といっても様々。ろう者であったり難聴者・中途失聴者であったり、コミュニケーションの違いがある。窓口等でよく見られる『筆談でご対応いたします』はあたりまえ。アピールすること自体恥ずかしいと思って欲しい。情報保障の選択ができる環境を



ご清聴ありがとうございました

